

# 前向きに まずはやってみなはれ!

東北大学大学院農学研究科 准教授

大越 和加

プロフィール  
専門は海洋生物学。00年11月、01年3月、日本南極地域観測隊に参加(ママ、南極へ行く!)主婦の友社。同じ分野の研究者である夫と2人の子どもの4人家族

私は大学院のころから現在まで、一貫して海の中の下等な生物の生きざまを調べています。海の中には多種多様な生物が生息し、それらが絶妙なバランスでお互いに密接に関係しあっている海の安定を保っています。人間社会も同じなのではないかと思えます。

我が家では、夫は同業者で幸いにも私の仕事に対する理解は十分、家庭生活との両立にも協力的で何ら問題はありません。ところが、二人の子どもが加わるとそう簡単ではありません。カナダの在外研究の時には、家族全員で渡加し、0歳の息子を背負い、3歳の娘の手を引きながら調査に出かけました。南極観測のチャンスが巡ってきたとき、子どもは小学校4年生と1年生。子どもたちには「ママを南極に行かせないキャンペーン」を張られ、葛藤もありましたが、最後には南極海を自ら調べたいという思いと周りの理解が何とか得られ、家族と約半年間離れて



メリカの南極基地の越冬隊長も今や女性です。自分の人生です。やりたことがあるのであれば、自分をそして家族を信じて、前向きに「まずはやってみなはれ!」(第2次日本南極地域観測隊長西堀栄三郎氏の言葉)です。為せば成る、道は開けます。

観測を行いました。これまでを振り返ると、節目ごとにいろいろと大変なこともありましたが、その大小の山を一つずつ家族や周りの人と一緒に越えてみると、「雨降って地固まる」のように、親も子もそれぞれに意外とたくましく育っているように感じます(そうならざるを得なかったのかもしれないが)。今では、一人ひとり個性が強いのですが、なかなかいいハーモニーを奏でるようになったのではないかと思います。

さて、日本では女性研究者は珍しいかもしれませんが、国際会議に参加すると世界にはたくさんの方が女性研究者が当たっていることがわかります。アメリカの南極基地の越冬隊長も今や女性です。自分の人生です。やりたことがあるのであれば、自分をそして家族を信じて、前向きに「まずはやってみなはれ!」(第2次日本南極地域観測隊長西堀栄三郎氏の言葉)です。為せば成る、道は開けます。

# 恋人同士でもDV※に注意!

## 携帯電話によるデートDVも...

若い世代における恋人間の暴力は「デートDV」と呼ばれ、内閣府や各種団体の調査報告、講演会、マスメディアで扱われるなど、社会問題となっています。

デートDVには殴る、けるなどの身体的暴力、性行為の強要などの性的暴力、怒鳴る、友人関係を制限するなどの精神的暴力、デート代を払わずなどの経済的暴力があり、配偶者間のDVとほとんど変わりません。

最近は携帯電話を使ったデートDVも多数報告されています。携帯電話による監視や行動の制限は、周囲から気付かれにくく、被害が深刻化していきます。

### こんな経験はありませんか?

- ※急に機嫌が悪くなったり、優しくなったりして、いつも気をつかわされる
- ※「ばか」「頭が悪い」などと暴言をはかれる
- ※嫌がっているのに性的行為を強要される
- ※「別れたら死んでやる」などと脅される
- ※電話に出なかったり、直ぐにメールを返信しないと怒られる
- ※携帯電話の着信・発信履歴をチェックされる
- ※1日に何度も電話やメールで行動を報告するように命じられる
- ※携帯電話のカメラで裸の写真を撮られ、それを使って嫌な思いをさせられる

お互いが対等なはずなのに…。束縛や嫉妬、暴力を“愛情”表現だと思い込み、自分の気持ちを相手に伝えられずに我慢していませんか。暴力は犯罪をも含む重大な人権侵害です。相談は無料で氏名などは聞きません。ひとりで悩まず気軽に相談してください。悩んでいる人がいたら相談窓口を教えてください。秘密は固く守ります。

## パートナーシップさいたま「女性の悩み電話相談」048・643・5813

月～金曜日：午前10時～午後8時 / 土日祝：午前10時～午後4時(年末年始・毎月第4日曜日を除く)

※DV(ドメスティック・バイオレンス)とは、配偶者等の親密な関係にある者からの暴力のことです



### 第2次さいたま市男女共同参画のまちづくりプラン(骨子案)に関する

# 貴重なご意見をありがとうございました

主なご意見

前号でご案内いたしました「第2次さいたま市男女共同参画のまちづくりプラン(骨子案)に関する広聴会」を、昨年11月1日に開催いたしました。当日は多数ご参加をいただき、厳しいご指摘や力強い激励など多岐にわたるご意見をいただきました。

また、同日から12月1日まで、この骨子案に関する意見募集(パブリック・コメント)も実施し、228件のご意見をいただきました。

皆様からのご意見は、平成21年度から取り組む「第2次さいたま市男女共同参画のまちづくりプラン」に反映いたします。貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございました。

なお、第2次プランは3月中旬に策定し、市のホームページなどで公表いたします。ぜひご覧ください。



広聴会参加者による意見交換

- プランには具体的な数値目標を設定し、取組の成果を報告してもらいたい
- 男女共同参画についての啓発及び情報提供、プランによる取組のPRを進めてもらいたい
- 女性に対する暴力のないまちづくりに向けた、若年層を対象とした取組を行ってほしい
- 男女がともに仕事と家庭生活を両立できるように、子育て支援などの取組を充実させてほしい

男女共生推進課 問合せ 048・829・1231

## 科学技術系分野における女性の活躍促進に向けて

プロフィール

日本生物物理学会会員。男女共同参画学協会連絡会が2007年に実施した大規模アンケート調査に実施委員として携わる

東京大学大学院 総合文化研究科 教授

豊島 陽子



特別寄稿

科学技術の向上を促し、より豊かな社会を築くために、女性研究者・技術者の活躍が望まれているが、科学技術立国を標榜するわが国において、その専門職の女性比率は、他の先進諸国に比べて著しく少ない。理工系分野の男女共同参画学協会連絡会による大規模アンケート結果(回答者14、

000人余り、<http://annex.jsp.or.jp/remakukai/enquete.html>)から、男女共同参画の実態と課題がみえてきた。

理工系分野の研究者・技術者は、大学院を修了して博士の学位を取得し、ポストドク(ポストドクトラルフェロー、博士取得後(研究員)などの職で研鑽を積んだ後、大学や研究機関の研究者として独立する、あるいは、大学や大学院を卒業後、研究機関や企業においてチーム型の研究職や技術職に就く。男女とも、「自分の能力が発

揮できる」「真理の探究をしたい」など、主体的・積極的な理由で職業選択をしている。学歴、学位(博士)の取得状況、研究職と技術職の比率、においては男女の差がほとんどないが、役職を見ると、大学、研究機関、企業ともに職位が高くなるほど女性比率が低くなっている。有配偶者率は40代以上では男性のほうが高いが、男女とも30代後半では約70%、30代前半では約50%とほとんど男女差はない。どの年代においても男女ともに、平均2人以上の子どもをもつことを理想としているが、現実には理想は達成できず、少子化傾向にある。研究者に特有な状況として、独立した研究職を得る競争が厳しいため、男女とも研究成果を上げるべく長時間の仕事をしている、研究者として確立する時期と出産・育児の時期が重なるためにその両立が難しい、女性研究者のうち有配偶者の約3分の2が同業の夫をもつが、カップルが同じ地域(特に地方)で研究職に就くのは難しい、などがあげられる。

この分野の人材を育成し、男女ともに活躍できる環境をつくるためには、ポストドクの安定した職の確保、仕事と子育ての両立支援、女性指導者の養成、などが重要な課題である。積極的な支援策が必要であると同時に、多様な働き方や考え方に柔軟な対応ができるように意識を啓発することも大切である。